

# ロシアの食事

情報文化学科 2年 今井 勇希

私は2014年8月27日から12月23日までのおよそ4ヶ月間、ロシアのウラジオストクにあるウラジオストク国立経済サービス大学に留学してきました。この留学は私にとって、初めての海外であったため、食事は口に合うのだろうかという不安が多くありました。ここでは、ロシアの食事がどのようなものであったかを紹介していきたいと思います。

ロシアにきて初めて食事をとった時に、一番強く感じたことは、脂っこい！！と思いました。ロシアの食事は基本的に脂っこいものが多かったと思います。私は脂っこいものが好きだったのですが、あまり好まないような人は慣れるのが大変かもしれません。それに味も濃い目なので私はとても好みでした。

ロシアの料理と言ったら、「ボルシチ」が出てくると思います。ボルシチは本当においしかったです。色が真っ赤で、最初は恐る恐る飲んだのですが、とても飲みやすく毎日飲んでも飽きないようなおいしさでした。それに、市販のボルシチの素を使えば家庭でも簡単にあのおいしさを楽しめるというものでした。

学校の近くにある屋台のものは全部がおいしかったです。そこでは「ピロシキ」や「プローフ」などが買えます。ピロシキは揚げたパンの中にジャガイモやキャベツなどを入れたもので、脂っこかったですけどほとんど毎日食べました。プローフは味のついた米に肉や野菜などを乗つけたもので、非常に美味しかったです。

私がロシアで最も美味しいと感じた料理を紹介します。それは「ブリヌイ」です。この料理はデザートのようなもので、クレープの皮みたいなものにシロップなどを付けて食べるものです。ロシアの料理は初めて口にする時は、だいたい脂っこいな、のようにあまり良い印象を持ちませんでした。しかし、これを初めて口にしたときには素直に美味しいと感じました。これはロシアに行ったら絶対に食べておくべきだと思います。

ロシアの料理は慣れるまでは少し大変でしたが、慣れてからは本当にすべてのものが美味しかったです。留学中は日本料理が恋しくもなりましたが、帰ってきた今となってはもう一度あのロシアの脂っこい料理を食べたいと思います。